

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200222		
法人名	株式会社 ケアインベーション		
事業所名	グループホーム ひなた日和		
所在地	栃木県足利市本城1丁目1578-1		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年12月16日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して約半年がたちます。地域との交流がもてるよう、天気の良い日は施設周辺を散歩したり、ドライブに行ったり、自治会行事である、4月に行われた雷電神社春季祭や、7月の子供おみこしの時は、当施設が休憩場所として利用していただくなど積極的に参加し交流を図っている。また、ひなた日和の「理念」「職員像」を掲げ入居者が『生きがい』と尊厳のある、自己決定ができる自立した生活、職員は傾聴、需要、共感し高度な介護技術を活かし支援し入居者一人ひとりが居心地の良い過ごしやすい施設でありたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市中心部に程近い、高等学校や病院などのある静かな住宅地にある。4月に開所してまだ間もないが、隣接の小規模多機能事業所や同グループの事業所とも連携を取りながら、施設長や管理者と職員が一体となり、利用者が毎日楽しみながら生活出来るよう、また職員も共に生き生きと楽しみながら利用者に寄り添えるようケアに努めている。散歩に出れば近所の方が気さくにあいさつしてくれ、きれいな庭に招き入れてくれる。地域の祭り際には事業所に子供神輿に寄ってもらい休憩所として提供している。今後、さらに地域の人々からの理解を深め、より一層、地域の人たちとの交流を深め、利用者が居心地よく暮らせることを目指している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とホール間の掲示板に理念を掲げ実践していけるよう努めている。	事業所理念は「職員像」と共に事務室等の目につく位置に掲示しているほか、毎月の職員会議や日々の会話などで確認し実践につなげている。また、新規職員には必ず説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域行事に参加したり、散歩、外出することで地域住民の方との交流を持てるよう取り組んでいる。	散歩中に近所の人と挨拶を交わしたり、家の庭を見せてもらっている。また、神社の春・夏祭りに出かけて地域の人たちと共に楽しんでいる。夏祭りでは事業所を子供神輿の休憩所に提供し子供たちに氷菓子を配り喜ばれた。	開所後間もない事業所であるが、事業所の行事に地域住民への呼びかけ方の工夫や、事業所への理解を深めてもらう努力など、今後ますます事業所が地域の一員として交流が深められるような検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が浅いため活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11月に初回の運営推進会議を行う。また、2か月に1回開催し、今後のサービス向上につなげていきたい。	運営推進会議は、利用者・家族、自治会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月に1回開催し事業報告の他、活発な意見交換がありサービス向上につなげるよう努めていると考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から密に連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	分からないことや、確認したいことがあるときは、連絡を取り、協力関係を築けるよう取り組みに努めている。	運営推進会議に市担当者や地域包括支援センター職員が出席している。相談が必要な時は電話で聞いてくれる関係が出来ている。キャラバンメイトや認知症サポーター養成講座への相互協力も考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関のカギは施錠せず、いつでも出入りができるようにしている。	経験豊かな職員が中心となり身体拘束のないケアに努めている。危ない時は声のトーンを変えて言葉をかけるなど工夫し、待つ時は理由を伝えている。日中は玄関の施錠をせず、見守りながら利用者の希望に沿えるよう取り組んでおり、共に外を歩く時もある。	事業所職員に、身体拘束をしないケアの実践を含む内部・外部研修など勉強の機会を工夫し、より広い知識・情報を得て、事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組む、検討される事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士、話し合い虐待のないよう、注意を払い、防止に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要性に応じて、対応、支援ができるよう取り組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご本人、ご家族と一緒に、説明を行い、分からないことや、不安なことは、再度わかりやすく説明を行い理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、また、電話があったときなどに、日々の状況等伝え、いつでも、意見要望を傾聴し運営に反映できるよう努めている。	家族が面会に訪れた時や運営推進会議時やアンケートで要望など話しを聞いている。事業所の敬老会や流しそうめんなどの行事にも声をかけている。広報紙を毎月作って事業所内での利用者の様子を家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議や、日々の会話の中でも意見を聞き、反映できるよう努めている。	毎月1回の職員会議や毎日の申送り時や日常においても、職員が施設長や管理者に意見や提案が言える状況であり、ケアのことや業務改善など意見も多く出されており、それを運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがい、各自向上心をもって働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加し職員のスキルアップを図っている。また、働きながら職員同士ケアについて話し合い、互いにスキルアップできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体の会議や研修会等に参加し職員との交流を図っている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、在宅、施設へ訪問し、ご本人の不安なこと、要望を聞き、安心してサービスを利用していただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、ご家族様の困っていること、不安、要望を聞き、安心して利用していただけるよう、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に「グループホーム」の説明を行い、必要なサービスかどうか一緒に検討し、他サービスの利用も含め担当ケアマネージャーとも相談しあい対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ることはしていただき、できないことは一緒に行うことで支えあう関係を気づいていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際に、日々の状況を伝え今後につなげ、共に支えていけるような関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問や、場所への外出は継続してかわりをもてるよう支援に努めている。	利用者の高校時代の友人など知り合いが来訪した時は、自分の部屋でゆっくり話せるよう配慮している。馴染みの美容室や行きなれた歯医者に行きたい方もいて、利用者の以前の関係の継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立にならないよう座席の配置や、スタッフが間に入り、入居者同士が関わりあえるよう支援に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて、相談、支援が行える関係性に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で希望、意向を傾聴し把握に努め、また、職員会議などで話し合い検討している。	家族の話や本人との会話や目の表情などから希望や意向を察し、日々の訴えの変化も細かく観察して、職員会議で全員が共有し、本人の意向に沿った支援に努めている。出来る事はやらせてもらうことを基本にその日の過ごし方を考えている。食べたいものや買い物・入浴の希望などがあり、職員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご家族様、ご本人からの情報や、日々の会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を配置し、現状の把握と、心身の状態の変化、また、気づいたことは連絡ノートを使用し、情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人、必要な関係者との話し合い、意見、アイデアをもとに、現状に即した介護計画を作成している。	職員は担当制であり、本人の希望を踏まえ、入居時・面会時等に家族の意向を確認し、毎月のケース会議で担当者や職員と話し合い、場合により主治医の意見も聞きながら管理者が作成している。半年毎にモニタリングし見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に経過記録を作り、日々の様子、ケアを記録し、職員間で情報を共有し、日々のケアや介護計画に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に配慮しながら、その時のニーズに柔軟に迅速な対応、サービスが行えるよう努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は、施設周辺を散歩、ドライブと外出の機会を増やし、心身が豊かに楽しんでいただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族希望がある場合はかかりつけの医療機関を受診していただいている。特にない場合は、協力医である中谷医院の受診体制をとり、支援している。	かかりつけ医は本人及び家族の希望を優先している。受診の際、本人の状況などの情報は書面等を通じて医療機関・事業所・家族で共有出来るようにしている。認知症の相談は別途精神科病院への受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携を取り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを使用し入所中の状況を伝えるなど情報交換に努め、また、ご家族様と連絡相談しあい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人と話し合う機会を持ち終末期に対応できる態勢を整えていきたい。	重度化や終末期の方針については、時期を見ながら、本人や家族と話し合っていく事としているが、グループホームでの看取りを希望する場合は、本人・家族と話をし医師や関係者の協力を得ながら、実現に向けて取り組んでいく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練等には参加できていないが、今後、施設内外の研修、講習に参加し実践につなげていけるよう取り組んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月に消防署立会いのもと総合避難訓練、10月に防災会社立会い通報装置指導と避難訓練を行っている。	今年度、隣接の小規模多機能事業所と合同で、春・夏それぞれ日中想定で消防署立会いと防災会社立会いの訓練を実施した。夜間は小規模多機能事業所の夜勤者同士で協力し合う事になっている。	今後、職員の定期的な訓練、夜間想定訓練、また、近隣の人に参加を呼びかけるなど、地域との協力関係の構築、さらに備蓄の取り組みなど災害対策の検討を期待したい。

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重、尊厳、プライバシーを傷つけないよう声掛けに注意し対応に努めている。	職員は利用者に対して、常に目上の人として丁寧に接している。苗字にさん付けでの声かけをしているが、その方に合わせ、親しみを込めて愛称で呼ぶこともたまにある。排泄や入浴の時などは、そばで本人だけに伝わるような言葉で声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも、思い、希望が言えるような環境づくりと自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、入居者の要望希望を傾聴し、その人らしく過ごせるようよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や、入浴準備のときはできるだけ一緒に準備し、着たいもの、季節に合った身だしなみおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、調理の準備、盛り付け、配膳、あとかたづけと、無理なく一緒にできるよう支援している。	食材は職員が随時買い揃えて毎食冷蔵庫を見てメニューを決め調理しており、利用者と職員と一緒に食事している。毎回準備、調理片付けに参加する利用者がある。他の方も出来る人は野菜の下ごしらえなどで参加している。男性はテーブル拭き等を担当している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表を作成し、一日の食事量が確認できるようにし、また献立ノートを作り、栄養バランスに気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要な入居者にはその都度一緒に行い口腔内の清潔保持に努めている。。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを確認し、表情や、体動の変化に注意し、自立への支援に努めている。	一人ひとりの排泄チェック表を作成して排泄パターンを把握し、リハビリパンツ・パッド・綿パンツなどを検討して活用している。トイレ排泄を促し排泄の自立に向けた支援をしている。夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分補給をこまめに促したり、日中の活動量を増やすなど予防に努めている。、ご家族様と相談し、乳製品や、ジュース等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度の入浴を提供しているが、希望があったときはそのタイミングに合わせて入浴できるよう対応している。	浴室は広く一般浴槽のほかシャワー浴設備がある。1対1の介助で基本的には3日に1度で午後入浴であるが、本人の希望にあわせ、毎日を希望する人には対応している。拒否傾向のある方には、2人介助で上手に誘導するなど気持ちよく入浴出来るよう工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、体調の状況に応じて、休息できるように支援しています。また、就寝時は個々のタイミングに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方箋を確認し、きちんと理解、把握し、チェック表作成し服薬に努めている。また、症状の変化、内服薬の変更等には連絡ノート使用し確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、できることを見つけ日々の生活で役割や趣味が発揮できよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺を散歩したり、またはドライブを支援している。また、ご本人の希望に添えるよう努めている。	近くに貯水池があり鯉や蓮の花が見られ、天気の良い日の15分程度の散歩コースとしている。また、小規模多機能事業所と一緒に市内各所に出かけたり、帰宅願望のある方と生家の近くを回ることもある。ちょっとおしゃれしてフラワーパークやショッピングモールで外食も楽しんでいる。	



グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご家族様へ説明、了解を得て、おこずかいをお預かりし、希望や必要に応じて使えるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、ご家族の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では不快な思いのないよう環境整備に努め、刺激のないよう配慮し、また、季節に合った飾りを一緒に作成し季節感のある生活を過ごしていただけるよう工夫をしている。	リビングや台所は、表から、また天窓からの陽光と照明で適度の明るさが保たれ、ガス暖房機、加湿器などで適温・適度な湿度が保たれている。壁には職員が作った飾りや利用者の作品が貼られ、コーナーにはクリスマスなど季節の飾り付けがしてあり、居心地の良い明るく楽しい雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者が、気軽に座れたり、横になったり多目的に使用できる畳や、数人で座れるソファがあり、思い思いに過ごせるよう工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れたもの馴染みのあるものを持ってきていただき居心地良く過ごせるよう努めている。	居室はフローリングで毎日職員が掃除をするが、出来る方には一緒に掃除してもらっている。ベッド、タンスは備え付けであるが、危険なもの以外写真など、馴染みのあるものや好きなものを何でも持ち込み出来ることを伝えており、写真や自分の作品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが、自立に向けて、安心して、安全に生活できるよう環境整備に努めている。		